

Art

ヴェネチア、ムラノ島でガラス工房を構える唯一の日本人アーティスト、土田康彦



モザイクの緻密さと吹きガラスの大胆さ。比類なきテクニックと造形美でガラスに新しい表現を吹き込む土田康彦の作品。7世紀以来のガラス作りの伝統を誇るイタリア、ムラノ島に工房を構える、唯一の日本人アーティストだ。2008年第11回オープン国際彫刻展に日本代表として出展し最優秀グランプリ受賞。2015年にはミラノ万博・日本館で書家・柴舟氏の書をガラスで造形した彫刻作品を発表。日本館は200万人以上の来館を記録し、最優秀金賞を受賞した。華々しい活躍で世界を魅了する土田康彦は、料理を学んだのち、アーティストになる夢を抱いてパリへ。ヴェネチアでガラス制作をスタートさせた。

柔らかく溶けたガラスを素早く造形する作業は、一見、偶然の成り行きに任せているように見えるが「偶然に頼るのは嫌い。自分のサインを入れるのは、作りたい作品が出来た時だけです。作品にはまずビジョンがあり、それを言語化するプロセスが不可欠です。不思議な事に言語化をイタリア語でやっている時と、日本語での時とは、作品のテイストも変わってきます。作品テーマごとにコンセプトとなる「コトバ」を編み出す。近作「運命の交差点」シリーズに寄せた「コトバ」には、人生の中に通過した人との縁や感情の切ない痕跡を「サウダージ」（郷愁）という言葉になぞらえて記している。鮮やかな創造の奥にある、言葉による深い思索の痕跡を読み取ることで、土田作品の深みが見える。

上、2016年10月、ギャラリー大雅堂（京都）での個展風景。左はイタリア語でコンセプトを言語化した「孔雀シリーズ」、中はそのプロセスに日本語を使った「パンプンシリーズ」、右、「日本の兜のよう」と評される「地中海シリーズ」。

「AI THE BEST TOUR」京都公演を記念して AIオリジナルバンドナ付きマーブルデニッシュを発売



シンガーAIが活動15周年を記念してリリースしたベストアルバムと同名の「AI THE BEST TOUR」で、2016年5月から12月にかけて日本全国を巡った。AIにとって初めての50公演を超えるツアーは、各地の公演チケットがソールドアウトする大反響を呼び起こした。

グランマールは創業20周年を記念し、その京都公演をサポート。AIが選んだマーブルデニッシュと、AIオリジナルデザインバンドナの特別セットを発売した。限定のマーブルデニッシュは、キャラメルのような甘い甘さにくるみの食感がアクセントになったフレーバー。名前は AIの大切な言葉「ラブ&ピース」と名付けられた。グランマールとAIコラボによるセット商品はネット販売のほか、「AI THE BEST TOUR」京都公演の会場でも販売され、用意された個数は開演前に完売。「みんながみんな英雄」が50万ダウンロードを記録し、オフィシャルアーティストとして制作したオリジナル曲「Run To The Sun」がJALホノルルマラソン2016及びホノルルハーフマラソン・ハバルア2017のテーマソングになるなど、2017年も AIのパワフルな活躍はノンストップ。

上、10月9日に行われた「AI THE BEST TOUR」京都公演。ステージでは AIのパワフルなダンスと歌が炸裂。左、開演前の熱気に包まれたロビー。バンドナに記された AIのメッセージにファンが熱気あふれる様子。右、AIオリジナルデザインのバンドナ。写真はネイビー。他にオレンジも販売された。

GRAND MARBLE JOURNAL

BSフジ「エスプリ ジャポン」が、グランマールを密着取材

「世界に誇る“Cool Japan”を日本全国から探し出し、世界に向けて紹介していく」をテーマにした、BSフジのドキュメンタリー「ESPRIT JAPON」が9月26日放映の番組でグランマール代表取締役の山本正典を取材した。グランマールのこれまでを支えてきた様々な「出会い」、マーブルデニッシュを文化としてアピールするために発信するメディアやアート、伝統文化へのサポートについて、山本の生の言葉と密

着レポートで伝えるほか、「創業20周年祈念奉納「祈り」」の様子も収録(写真下)。美味しさを通してグランマールが伝えたいメッセージを広く知ってもらえる機会となった。番組は FOD(フジテレビオンデマンド)で配信中。
<http://fod.fujitv.co.jp/s/>



番組より、グランマールが協賛するKG+の会場のひとつ、gallery mainでの山本正典。

映画だけじゃない、人と表現をつなげる「京都国際映画祭2016」

第3回となる「京都国際映画祭2016」が、10月13日から16日まで京都の随所で開催され、グランマールも協賛。オープニングセレモニーでは「牧野省三賞」を受賞した篠田正浩監督と津川雅彦氏が登場。プログラムは「映画もアートもその他もぜんぶ」をテーマに、映画の上映だけでなくアート作品展

示や伝統工芸のワークショップ、そしてお笑いのステージと盛りだくさん。映画と創造を通して、人と地域と様々な表現が繋がらうイベントになった。

世界遺産・二条城を会場に催された「京都国際映画祭2016」オープニングセレモニー。



「ピンクリボン京都」が、今年も乳がんの啓発イベントを開催

世界で広がりを見せる、乳がん啓発活動「ピンクリボン」。国内でも様々なイベントが開催されている中、「ピンクリボン京都」が2016年で11回目を迎え、9月1日から10月31日まで内容もユニークに展開された。例えばピンクのエコバックを持った一般参加者が PRしながら歩くスタンプラリーは、東山の13社寺で乳がんに関するクイズをしたりと、趣向をこらしたイベントの楽しさもあり、年々賑わいを増している。事務

局長の江口ひろみさんは「活動を始めてから、全国43位だった京都の乳がんの検診率が20位になりました。一人でも多くの方に、乳がんが他人事ではないということをいかに伝えられるか?を大切に考えて活動してきたからこそこの数字だと思います。『検診を受けて、早くみつかってよかった』『検診を受けて大丈夫やったし、ホッとした』そんな笑顔の輪(和)が地域や社会、家族に広がっていくことを願っています」と語る。

グランマールから「もったいない心にありがとう」にご協力いただきありがとうございました。2016年は618000円をピンクリボン京都の活動にお役にいただきました。



写真上:ピンクリボン京都制作のリーフレット。グランマールも店頭配布などで啓蒙活動を行っている。写真下:10月8日には「第5回ピンクリボン京都スタンプラリー&ウォーク」が開催された。



お腹の赤ちゃん和妈妈のための「リビングマタニティコンサート」

お腹の赤ちゃん和妈妈が楽しむために企画され、毎回、参加者に好評を得ているユニークなコンサートが「リビングマタニティコンサート」。その第9回が2016年9月3日、京都・北山の京都コンサートホールで開催され、グランマールもサポート。プログラムには京都フィルハーモニー弦楽四重奏

団による演奏。曲目は、エルガーの「愛のあいさつ」、ハイドンの「ひばり」と、クラシック曲ほか「いとしいエリー」などJ-POPも。このほか、妊娠・育児に役立つ「マタニティトーク」や抽選会もあり、赤ちゃんの健やかな成長を守るママさんたちの憩いのひと時となった。

